



川崎さん(前列中央)と管理部の皆さん

「お米は地元で収穫したもので、抹茶塩で召し上がってくださいね」。食事のペースに合わせて、出来たての料理を丁寧に説明しながら笑顔で運んでくれる「元仲田邸 くらやしき」の「おかあさん」たち。さりげない気遣いに、利用客にも笑みがこぼれます。

「農林漁家民宿おかあさん100選」に、元仲田邸管理部の部長を務める川崎幹子さんが選ばれました。

この100選は、農林水産省と観光庁が、農林漁業をしながら運営する全国の民宿の中から心こもったものでなし

や都市住民等との交流に努め実績ある女性を選定するもので、今年1月に第1回として20人が選ばれています。川崎さんは、先月3日発表の第2回28人に選ばれ、県内では初めての100選入りです。

「元仲田邸 くらやしき」は、平成6年10月にオープン。旧高梁市が農村型リゾート整備事業で整備した、備中宇治彩りの山里リゾート施設の一つで、地元で組織する管理運営委員会が管理しています。

## 「農林漁家民宿おかあさん100選」に選定

備中宇治彩りの山里リゾート施設管理運営委員会  
元仲田邸管理部部長 川崎 幹子さん (宇治町宇治)

現在では、年間に会食等で約4000人の利用があり、そのうちの800人近くが宿泊。管理部の地元主婦8人が中心となり、接客や調理に当たっています。

川崎さんは「主婦の接客ですから、失敗は数知れませんが、地元で採れたものを使うので、料理も野菜や山菜が中心。でも、ここでしか味わえないものをと、真心込めて料理を作り、お客さまとのふれあいを大切にしてきました。みんなで取り組んできたことを認めていただいたんでしょうね」と謙虚に話されます。

地元食材をふんだんに使った京風の郷土懐石は、平成4年に郷土料理研究会を立ち上げ、オープンに向けて研究を重ねたもの。試行錯誤で開発した「たかきびの揚げ出し」や、地元で作られる「ちようちん切りの干し大根」の煮物など、素材で懐かしい味わいが好評です。

「ゆつくりできて落ち着ける」との声も多く、春と秋に必ず訪れてくれるリピーターや、宿泊客からたくさんのお礼の手紙も届いています。こうした交流が張り合いを与えてくれると同時に、住んでいると気付かない地元の良さを教えてもらうことも多いとか。



江戸時代の庄屋の伝統を受け継ぐ明治中期建造の造り酒屋を改修した「元仲田邸 くらやしき」(写真上)  
心のこもった郷土懐石は、予算の相談にも応じてもらえます。(写真下)



「温かい料理は温かいうちに、冷たいものは冷たいうちに食べていただく」がモットー。お客さんとの会話が弾みます。

「元仲田邸は、「宇治」を訪れてくれた皆さんに、陶芸や農業体験など、「宇治」を満喫していただくための拠点施設とも思っています。現在の管理部はオープン当初からのメンバーですが、活動を受け継いでくれる人材が、これから地域の中で育ってくれば」と川崎さん。

今日も「おかあさん」たちの温かい笑顔が迎えてくれます。

# 吉備国際大学の高度教育が 文部科学省に認められました!

## 学部教育プログラムが教育GPに選定

保健科学部（看護学科・理学療法学科・作業療法学科）と社会福祉学部（社会福祉学科・子ども福祉学科）の教育プログラム「医療・福祉領域の連携スキル学習プログラム—包括ケアを目指した社会福祉・看護・作業療法領域の合同演習の試み—」が、文部科学省の平成20年度「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に選定されました。

これは、全国の大学・短期大学・高等専門学校から申請された教育の質の向上につながる取り組みの中から、特に優れた取り組みを同省が選定し財政支援を行う事業で、今年度から新しく始まったものです。

学部・学科の枠を超えて、社会福祉・看護・作業療法の3領域の連携を図る教育プログラムを展開することで、質の高い専門職者の養成を目指します。



## 大学院教育改革支援プログラムに採択

また、大学院文化財保存修復学研究科文化財保存修復学専攻の教育プログラム「グローバルな文化財修復技能者の実践的養成」が、同省の平成20年度「大学院教育改革支援プログラム」に採択されました。

これは、昨年度からスタートした大学院の優れた取り組みを支援する事業で、中四国地方の私立大学では初の採択となりました。

文化財保存科学の知識を有した保存修復技術者として、国際的に活躍できる人材の養成を進めます。

■問い合わせ 高梁学園入試広報室（フリーダイヤル0120-25-9944）



### 編集後記

11月号からは、表紙を全面写真にしてイメージを一新することとしました。  
広報紙の役割は、言うまでもなく市政を市民の皆さんにお知らせすることです。しかし、そのことは往々にして、こちらから一方的に情報を流すといったことになりかねません。今年度から、パブリックコメント制度が導入されることとなっています。これは、市の

重要な計画などを策定する場合に、素案を示し市民の皆さんの意見を聴いた上で策定していくといった手順を踏むものです。  
これからの広報紙は、お知らせするだけでなく、問いかけていくことも重要となってきます。私たち担当3人、新たな気持ちで編集・発行していこうと考えていますので、よろしく願います。  
(N・K)

## まちの 伝言板

### 平川郷昭和絵図完成お披露目会 および昭和ミニイベント



平川郷昭和絵図制作委員会  
会長 江草正光さん(70)

備中町平川地区が昭和30年代にタイムスリップ。当時食べられた駄菓子や団子汁などをその時代の装いでもてなすコーナーや、生活用品の展示コーナー、ボンネットバスも運行されます。  
このイベントは、同地区の昭和絵図が完成したことを記念して開催されるものです。  
「平川郷昭和絵図」と名付けられたこの鳥瞰図は、同地区が昭和30年代に栄えていたころを後世に伝える目的で作られました。江草正光さんが中心となり「人と人とのつながりがあり、みんなが助

け合っていた、そんな昔のまちを何らかの形で後世に残したい」と賛同する仲間と制作委員会を設立。どういう形で残すか視察・研究を重ね、最終的に鳥瞰図に決めました。  
江草さんらが聞き取り、再現した民家や商店のイラストを、鳥瞰図の制作で有名な倉敷市の画家・岡本直樹さんに依頼して仕上げられました。  
「過疎のまちですが、未来を夢見で発展してほしい。この昭和絵図が活力の原動力になれば。皆さん、ぜひイベントで昭和を満喫してください」と江草さん。  
詳細は次のとおりです。  
▽日時 11月29日(土) 午前11時15分〜午後3時  
▽会場 ひらかわいこいの家  
■問い合わせ 同制作委員会  
会長 江草さん (TEL) 233433